

「久高島を訪れる」

文責 中筋 大樹



朝 10 時に安座間港を出発し、30 分ほど船に  
ゆられて久高島に到着！

私たちを案内してくださったのは、内間豊さ  
ん。久高訪問のアレンジをしてくださった安里英子さんのご紹介です。内間さんは、地元  
で「スーパーゆたかさん」と呼ばれているほどの方で、久高島を知るための最強の助っ人  
でした。

まずは、久高島の地割り制度について説明していただきました。久高島では、自分の土地  
を一か所ではなく、島のいろいろな所に分散して所有しているそうです。その理由は、平  
等性を確保するためだけでなく、リスクを分散するためでもあります。久高島は土地がや  
せているために作物が育ちにくく、場所によっては収穫が見込めなくなる可能性があるた

## 沖縄 FW3 日目（10月10日）



め、所有する土地を分散してリスクを回避するという先人の知恵から、地割り制度が始められたそうです。

内間さんが指をさしているのは、「ヒンプン」と呼ばれる、家の門の内側にある目隠しです。ヒンプンには、沖縄の魔物は角を曲がるのが苦手なため、直進して入ってこないよ

うに魔除けの意味もあるそうです。



非常にきれいに石が組まれていて、技術の高さがうかがえます。

このような大きな石を運んで、加工し、組み立てるためには、莫大な費用がかかります。つまり、久高島には、とんでもないお金持ちがいたわけです。彼ら

は、大航海時代に東南アジア諸 国との貿易により、富を手にしていたのです。



ここは、島の人たちが感謝をささげていた場所です。多くは、海の方を向いて祈るようになっているのですが、ここは、数少ない内向きの場所です。漁業が中心の久高島において、海に感謝するのは当然のことに思えます。では、内向きである理由とは言うと、なが〜い航海を経て、無事に島に着くことができたことに対して島に感謝し

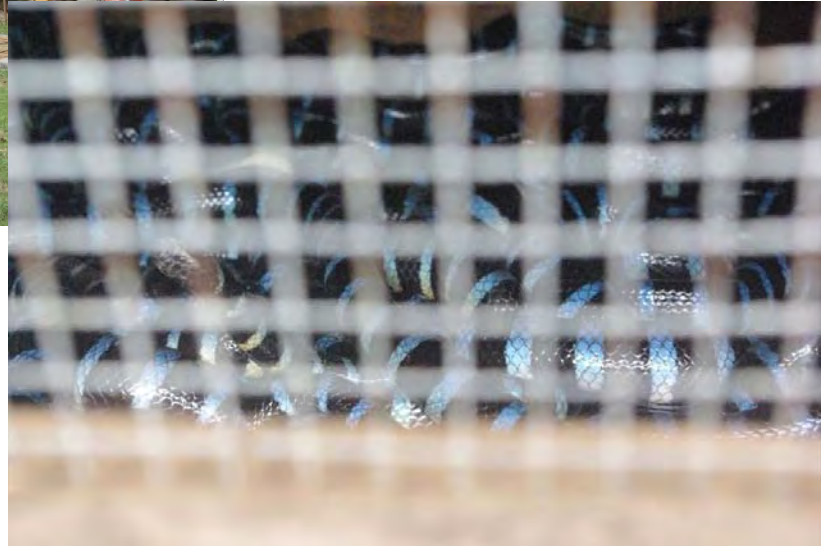


沖縄 FW3 日目（10月10日）



ていたからだそうです。

写真左の小屋は何でしょうか。



小屋の裏には、たくさんのウミヘビがいました！この箱の中でウミヘビの排泄物を全部出させて体内をきれいにした後に、上の写真の小屋で燻製にするそうです。

そして、燻製小屋の隣にある白い建物は、久高島で最後にイザイホウが行われた場所です。



「…島で生まれた 30 歳以上 70 歳までの女性は、ミコ（巫女）としてナンチュ（30～41 歳）、ヤジク（42～53 歳）、ウンサク（54～60 歳）、タムト（61～70 歳）の 4 段階に組織されるが一般の女性からミコとして神女にタマガエー（魂替え）する儀礼がイザイホウである。」  
（久高島の民俗史料室の展示より抜粋）

「NPO 法人 科学映像館」のホームページにおいて、1978 年のイザイホウ、つまり最後のイザイホウの映像を無料で見るができます。

## 沖縄 FW3 日目（10月10日）



このモニュメントは、女性器を表しているそうです。子供の誕生に感謝する久高島の人びとの思いが形となったものです。

最後にはもちろん、久高島のきれいな海で遊びました！



案内をしてくださった安里さんによると、久高島の海は、昔はもっときれいだったそうです。沖縄本島からさらに離れた久高島でさえも、環境に大きな変化が起きていることに驚くとともに、地球環境問題の大きさを感じました。

そうこうしているうちに、帰る時間がやってきてしまいました。

さようなら久高島！案内してくださった内間さんと久高島を訪問するにあたってお世話になった安里さん、ありがとうございました！